

# 東デ協 創立60周年によせて



過去を活かし、今を生きる

交流推進委員会 委員長

加藤 千寿夫

(株)スペース 取締役

今回の寄稿にあたり、10年前の創立50周年特集をあらためて拝読しました。田口徳久理事長（当時）のインタビュー記事は、人材育成から業界の底上げなど、創立からの50年を振り返りつつ、2020年の東京五輪への期待が描かれるなど、100周年の未来に向かう、素晴らしい内容でした。

それから10年。この間に、予想もできなかった新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックも発生しました。東京五輪の開催も1年延期されるほどの大きな渦となるなど、業界が受けた影響は計り知れません。パンデミックを乗り越えた現在、リアル空間でのイベントなどは、以前にも増して盛り上がっています。その様子を見ると、これから先、何が起こるか分かりませんが、恐れることはないとも思います。

田口元理事長は記事の最後で、「50年後のことは分かりませんが、ひょっとしたら世界中の木材が激減して、木工が使えない環境にあるかもしれませんし、アクリルやプラスチックも使えなくなっているかもしれません。そのように考えると、

『モノづくり』だけに関わるのではなく、『コトづくり』にも踏み込んでいかなければならないだろう」と述べられていました。今こそ、この言葉が活かされる時です。「コトづくり」もできなかったパンデミックすら乗り越えられたのですから。

たとえ、仮想空間のディスプレイが主流になったとしても、「コトづくり」をすることで「モノづくり」は続くと私は考えます。遠い未来を考えることも大切ですが、過去を活かし、今をしっかり生きれば、我々はこれからも成長し続けていけるでしょう。

あらためて、60周年、誠におめでとうございます。

これからも頑張っていきましょう！